

冬の事故（やけど・火災）に注意

低温やけど

事例 1

貼るタイプのカイロを体に付けたまま就寝したところ、治療に1ヶ月近くかかる深いやけどを負った。

アドバイス

カイロ、湯たんぽは温度調節の効かない暖房器具です。カイロは就寝時には使用しない、湯たんぽは布団が温まったら、出来るだけ布団から出すようにしましょう。

事例 2

暖房便座に30分ほど座っていたら、低温やけどを負ってしまった。トイレは寒いので「高」の設定で使用していた。

アドバイス

ストーブ、電気毛布、電気あんか、暖房便座でも低温やけどを負うことがあります。低温やけどになるまでの時間は、44度で3～4時間、46度で30分～1時間、50度で2～3分と言われています。電気毛布・あんか等は「低」の設定で使用しましょう。電気製品では取扱説明書に低温やけどについて注意喚起がされています。取扱説明書はよく読み、必ず保管しましょう。

- ・低温やけどを防ぐために、体の同じところを長時間温めないようにしましょう。
- ・高齢者は若者に比べ感覚が鈍く、熱源に接する時間が長くなるため特に注意が必要です。
- ・高齢者だけでなく、体の不自由な人や、泥酔した人も注意が必要です。

火災

事例 1

ガスコンロの火を消さないまま鍋を持ち上げたところ、近づき過ぎて衣服に火が燃え移り火災になった。

アドバイス

冬はゆったりした衣類や、表面に毛羽のある「表面フラッシュ現象」^(注1)を起こしやすい衣服を着ています。コンロの上に手を伸ばす時は火を消しましょう。

(注1) 生地 of 表面の毛羽に火がつき、瞬間的に火が燃え広がる現象

事例 2

つけたまま寝ていた電気ストーブに布団が接触して火がつき火災になった。

アドバイス

電気ストーブ（カーボンヒーター、ハロゲンヒーター、温風機を含む）は、炎が出て

いないため安全と思いがちですが、熱があるので接触すると火災の危険があります。ストーブの周囲には衣類、布団、紙類等の可燃物を置かないようにしましょう。

- ・ ストーブ（ファンヒーターを含む）の傍でのカセットボンベの放置やスプレー缶の放置・使用はやめましょう。スプレー缶には可燃性ガスが入っていることが多いです。
- ・ ストーブ（ファンヒーターを含む）をつけたまま寝るのは危険です。消してから就寝しましょう。

困ったことがあれば一人で悩まず消費生活センターにお電話してください

※消費生活センターでは、皆さんのところへ出向いて「なわて出前講座」を行います。10人程のグループで申し込みますのでお気軽にお問い合わせください。（「なわて出前講座」については、秘書広報課へご連絡ください。）